

2024 年度
事業報告書

自 2024 年 4 月 1 日
至 2025 年 3 月 31 日

一般財団法人 草間彌生記念芸術財団

東京都新宿区弁天町 109

目次

I. 事業報告	3 ページ
○事業の主旨	
○施設の概要	
1. 展覧会	
○第 13 回展覧会企画	4 ページ
[関連企画]	
○第 14 回展覧会企画	9 ページ
[関連企画]	
2. 教育普及活動	14 ページ
[美術館たんけんワークシート]	
[こどもワークショップ]	
[おやこで美術館]	
[スクールプログラム]	
[KUSAMA LERNING]	
[障がい者対応プログラム トライアル実施]	
3. 作品の収集・保存および調査・研究	20 ページ
4. 著作権の管理	
5. 美術館（建物）の管理	
6. その他、財団の目的達成のために必要な活動	
II. 運営体制	21 ページ

I. 事業報告

○事業の主旨

草間彌生美術館は前衛芸術家・草間彌生が設立し運営している。草間作品および関係資料の展示を通じて草間芸術の普及振興を図り、芸術全般の発展に寄与することを目的とし諸事業を展開している。

年に2回程度、収蔵作品（収蔵予定作品を含む）による展覧会を開催しており、関連して講演会、こどもワークショップ、ギャラリートークなどの啓発活動を実施した。草間が作品を通じて繰り返し訴えてきた、世界平和と人間愛というメッセージを広く世界へ伝え、多くの方々に現代美術に慣れ親しんでいただく美術館として持続的な運営をめざし活動している。

○施設の概要

2017年10月に開館した当館は、地上5階（展示ギャラリー、ブラウジングスペース、ショップ）、地下2階（収蔵庫）。建築面積129㎡、延床面積727㎡で、階段またはエレベーターで1階から順番に上の階へあがり展示ギャラリースペースへ進み、下りはすべてエレベーターを使用としている。

美術館から徒歩1分の至近距離に事務局を設け、美術館とは密接な連携がとれる環境となっている。

1. 展覧会

今年度の常設企画展は、第13回展を2024年4月～9月、第14回展を2024年10月～2025年3月に開催した結果、開館日数は計159日、来館者数70,298名、一日平均442名となった。

美術館開館日は通常、木・金・土・日曜および国民の祝日で、入場は1日6回転（1回75名）、開館時間は11:00から17:30まで。美術館敷地内に入場待機列をつくるスペースなどの余剰が少ないため、混雑緩和と近隣地域への配慮から事前予約制をとり、チケットは美術館の公式ウェブサイトのみで販売し、残数があれば入館時間の30分前まで購入可能となっている。今年度も来館者の約6割以上は訪日客となった。また、定員数の拡大により、入場時間前に過度な待機列ができることはなく、館内でも大きな混雑はなく、概ね順調に運営できた。

展覧会は、当館学芸課が企画し、作品選定、借用依頼、運搬、会場構成、展示、作品リスト・図録の作成などすべてを執り行った。出品作品は絵画、ドローイング、立体作品、インスタレーション、資料など多岐に渡り紹介し、鑑賞を楽しみながら制作の背景や美術史上の意義の理解ができるような展示を心掛けた。これまで通りバイリンガル表記の作品リスト、図録、ウェブサイト対応としている。美術館の広報手段のひとつであ

る公式インスタグラムアカウント（バイリンガル）では展覧会の様子や出品作品、教育普及イベントの情報などを随時発信した。展覧会のアーカイブ映像も制作し、当館ウェブサイト・インスタグラムにてアップした。

また、外部業者へ委託し、館内監視、来館者の受付対応、チケット販売、館内清掃などを行い、美術館の鑑賞環境の向上に協力を得た。

教育普及活動では、例年通り当館スタッフを中心にボランティアスタッフの協力を得て、情報発信、参加型イベントの継続開催などを実施した。

展覧会ごとに図録を制作、美術館のショップおよび公式オンラインストアで販売している。発行は一般財団法人草間彌生記念芸術財団で日英バイリンガル・A4変型ハードカバーの体裁。

○第13回展覧会企画

「草間彌生、具象を描く」概要

タイトル 「草間彌生、具象を描く」

会 期 2024年4月27日（土）～9月1日（日）

プレスレビュー 2024年4月26日（金）15:00～16:30

開催日数 77日間

入場時間 ①11:00 ②12:00 ③13:00 ④14:00 ⑤15:00 ⑥16:00

11:00から各90分枠の6回転制、2か月前の1日から美術館ウェブサイトのみにチケットを販売（4月・5月分のチケットのみ4月1日より販売）。事前予約・定員75名。当日の入館時間の30分前までチケット購入が可能。

観覧料 一般 1,100円 小中学生 600円（税込）

※未就学児は無料。団体割引の設定はなし。

入場者数 34,344名

1日平均 446名

図録 A4変型64ページ・ハードカバー・日英バイリンガル

チラシ A4

出品点数 73点

企画趣旨 10代の頃の草間彌生のスケッチブックには、対象を的確に描きとめた動植物の写生が多く残されています。草間は単一モチーフの反復による抽象絵画でよく知られる作家ですが、活動初期に磨いた観察力と写生による具象的な作品表現は、彼女の創作活動の出発点であると同時に、幻視や内面のヴィジョンを具体的な形に表すものとして、その後もさまざまな変遷を遂げてきました。本展は、1940年代から現在までに草間が制作してきた具象

作品の多様な展開に着目。渡米前のスケッチや日本画をはじめ、70～90年代に集中的に取り組んでいたコラージュ、1979年に着手して以降おびただしい点数を手がけている版画などには、具象的な描写が多く見られます。本展ではそれらの中に頻出する動植物や日用品といった親しみやすい身近なモチーフの作品を紹介。2000年以降に手がける近年の草間の画業を代表する絵画連作からは、自画像や不思議な人物像が大小さまざまなキャンバスに自由奔放に描かれた作品群を展覧。横顔や目といった、あるひとつの具象的なイメージが全体を埋め尽くすように繰り返し描かれることによって、オールオーバーな抽象絵画に限りなく近い様相を成しているのも草間作品の特色です。草間が最も好む主題のひとつであるかぼちゃモチーフからは、当館の開館を記念して制作したミラールームのインスタレーションと、大型の彫刻を展示。さらに、1960年代に初めて発表したボートを用いたソフト・スカルプチュアの最新作を世界初公開。

出品リスト

No.	作品名	作家名	制作年	材質・技法	寸法（縦×横）	所蔵（記載の無いものは草間彌生美術館所蔵予定）
1	赤熱の海を行く	草間彌生	2024	詰め物入り縫製布、ボート、オール、ピクニックセット、帽子、造花、アクリル	68 × 263 × 128 cm	
2	無題（花のスケッチ）	草間彌生	1945年頃	鉛筆・紙（スケッチブック）	21.5 × 30 cm	
3	枯れたモロコシの葉	草間彌生	1945	鉛筆、パステル（コンテ、クレヨン）・紙	38 × 50 cm	
4	無題（猿のスケッチ）	草間彌生	1948	鉛筆、パステル、水彩・紙（スケッチブック）	26.2 × 38.4 cm	
5	たいはくの葉	草間彌生	1948	鉛筆・紙	38.5 × 53 cm	
6	ビワの葉	草間彌生	1948	鉛筆・紙	53.7 × 39.2 cm	
7	稔り	草間彌生	1945年頃	岩絵具・絹	58.5 × 72.5 cm	
8	玉葱	草間彌生	1948	岩絵具・紙	35.9 × 59 cm	
9	魚	草間彌生	1953	インク、グワッシュ、パステル・紙	22.5 × 29.5 cm	
10	ウォーキング・ピース	草間彌生	1966	カラーライドによるパフォーマンスの記録 写真：細江英公	24 スライド	

11	麦と帽子	草間彌生	1979	グワッシュ、パステル・紙	50.5 x 65.5 cm	
12	山百合のある静物	草間彌生	1979	パステル、アクリル、インク・紙	51.5 x 65.7 cm	
13	蝶	草間彌生	1979	水性ペン、インク・色紙	24 x 27.2 cm	
14	花	草間彌生	1979	水性ペン・色紙	24.2 x 27.2 cm	
15	もろこし	草間彌生	1980	マーカーペン、グワッシュ・色紙	24.2 x 27.2 cm	
16	秋	草間彌生	1980	マーカーペン、グワッシュ・色紙	24.2 x 27.2 cm	
17	風にゆらぐ雌蕊	草間彌生	1978	コラージュ、アクリル・紙	65.7 x 51.3 cm	
18	野におきわすれた靴	草間彌生	1994	コラージュ、パステル、アクリル、インク・紙	36.6 x 51.3 cm	個人蔵
19	かぼちゃと蝶	草間彌生	1996	コラージュ、パステル、アクリル、インク・紙	51.3 x 65.7 cm	
20	フルーツバスケット(II)	草間彌生	2000	シルクスクリーン、ラメ・紙	38 x 45.5 cm / 50 x 65 cm	
21	月食	草間彌生	1989	シルクスクリーン・紙	45.4 x 52.8 cm / 53.5 x 61 cm	
22	花園	草間彌生	1989	シルクスクリーン・紙	45.3 x 52.5 cm / 53.5 x 61 cm	
23	花 FLOWERS B	草間彌生	2005	シルクスクリーン、ラメ・紙	61.2 x 51 cm / 71.5 x 60.3 cm	
24	FLOWERS B	草間彌生	2005	シルクスクリーン、ラメ・紙	51 x 61 cm / 60.3 x 71.5 cm	
25	かたつむり	草間彌生	1989	シルクスクリーン・紙	45.4 x 52.8 cm / 53.5 x 61 cm	
26	記念撮影	草間彌生	1995	エッチング・紙	29.4 x 22 cm / 53 x 38 cm	
27	花	草間彌生	1982	リトグラフ、コラージュ・紙	22.3 x 15.5 cm / 35.5 x 27.5 cm	
28	帽子	草間彌生	1982	リトグラフ、コラージュ・紙	15.5 x 22.5 cm / 27 x 33.5 cm	
29	レモンスカッシュ	草間彌生	1984	シルクスクリーン・紙	53 x 45.5 cm / 61 x 53.3 cm	
30	花と蝶	草間彌生	1995	エッチング・紙	34.3 x 22 cm / 53 x 37.5 cm	
31	ドレス	草間彌生	1982	リトグラフ、シルクスクリーン・紙	53 x 45.6 cm / 64 x 54.5 cm	
32	靴	草間彌生	1984	シルクスクリーン・紙	45.5 x 53 cm / 53.5 x 61 cm	
33	自画像	草間彌生	1995	エッチング・紙	29.4 x 22 cm / 53.5 x 38 cm	
34	きのこ	草間彌生	1995	エッチング・紙	22.1 x 29.5 cm / 37.5 x 53 cm	

35	靴をはいて野にゆこう	草間彌生	1979	シルクスクリーン・紙	50.5 × 65 cm / 54.5 × 69 cm	
36	幻の野に立ちて	草間彌生	1979	シルクスクリーン・紙	40.8 × 52.2 cm / 50.8 × 65 cm	
37	愛はとこしえ [TAOW]	草間彌生	2004	シルクスクリーン・キャンバス	130.3 × 162 cm	
38	毎日愛について祈っている_	草間彌生	2021	アクリル、マーカーペン・キャンバス	100 × 100 cm	
39	毎日愛について祈っている	草間彌生	2022	アクリル、マーカーペン・キャンバス	45.5 × 53 cm	
40	毎日愛について祈っている	草間彌生	2022	アクリル、マーカーペン・キャンバス	53 × 45.5 cm	
41	あなた 私の心をみて	草間彌生	2021	アクリル、マーカーペン・キャンバス	53 × 53 cm	
42	毎日愛について祈っている	草間彌生	2022	アクリル、マーカーペン・キャンバス	60.6 × 72.7 cm	
43	わかきおんなたちの愛と恋の美しきあつまりよ えぶりでの美しき日々よ 私の心のかぎりの美しさ 皆、 EVERY DAY I PRAY FOR LOVE	草間彌生	2021	アクリル、マーカーペン・キャンバス	60.6 × 60.6 cm	
44	毎日愛について祈っている	草間彌生	2022	アクリル、マーカーペン・キャンバス	100 × 100 cm	
45	宴のあと [SOXTE]	草間彌生	2005	シルクスクリーン・キャンバス	130.3 × 162 cm	
46	毎日愛について祈っている	草間彌生	2023	アクリル、マーカーペン・キャンバス	53 × 65.2 cm	
47	毎日愛について祈っている	草間彌生	2023	アクリル、マーカーペン・キャンバス	53 x 65.2 cm	
48	美しい目を求めて_	草間彌生	2004	アクリル、マーカーペン・キャンバス	60.6 × 72.7 cm	
49	毎日愛について祈っている	草間彌生	2021	アクリル、マーカーペン・キャンバス	60.6 × 72.7 cm	
50	恋人たち	草間彌生	2005	シルクスクリーン・キャンバス	130.3 × 162 cm	
51	毎日愛について祈っている	草間彌生	2022	アクリル、マーカーペン・キャンバス	72.7 × 91 cm	
52	毎日愛について祈っている	草間彌生	2023	アクリル、マーカーペン・キャンバス	65.2 × 53 cm	
53	毎日愛について祈っている	草間彌生	2022	アクリル、マーカーペン・キャンバス	65.2 × 53 cm	
54	愛はとこしえ	草間彌生	2004	アクリル、マーカーペン・キャンバス	38 × 45.5 cm	
55	プロフィール	草間彌生	2004	アクリル、マーカーペン・キャンバス	45.5 × 53 cm	

56	毎日愛について祈っている	草間彌生	2022	アクリル、マーカーペン・キャンバス	53 × 65.2 cm	
57	毎日愛について祈っている	草間彌生	2022	アクリル、マーカーペン・キャンバス	100 × 100 cm	
58	開花の季節に涙するわたし	草間彌生	2015	アクリル・キャンバス	194 × 194 cm	
59	私に愛をあたえて	草間彌生	2015	アクリル・キャンバス	194 × 194 cm	
60	心から生命の賛美をうたい上げたい	草間彌生	2009	アクリル・キャンバス	194 × 194 cm	
61	永劫の死	草間彌生	2014	アクリル・キャンバス	194 × 194 cm	
62	人間たちの営み	草間彌生	2013	アクリル・キャンバス	194 × 194 cm	
63	愛の会話	草間彌生	2015	アクリル・キャンバス	194 × 194 cm	
64	今日も同じく地球はかくのごとくまわる。	草間彌生	2016	アクリル・キャンバス	194 × 194 cm	
65	花園にうずもれた心	草間彌生	2009	アクリル・キャンバス	194 × 194 cm	
66	青春はさっていかない	草間彌生	2016	詰め物入り縫製布、アクリル、鉄	185 × 69 × 69 cm	
67	10の花びらにうずもれたわが愛	草間彌生	2015	詰め物入り縫製布、アクリル、鉄	61 × 75 × 30 cm	
68	花さけるわが青春	草間彌生	2014	詰め物入り縫製布、アクリル、鉄	155 × 83 × 75 cm	
69	わが心の花さいたとき	草間彌生	2015	詰め物入り縫製布、アクリル、鉄	61 × 75 × 30 cm	
70	花咲いた心のすべて	草間彌生	2015	詰め物入り縫製布、アクリル、鉄	96 × 110 × 47 cm	
71	宇宙から来たわたし	草間彌生	2017	詰め物入り縫製布、アクリル、鉄	193 × 95 × 95 cm	
72	無限の彼方へかぼちゃは愛を叫んでゆく	草間彌生	2017	ミクストメディア	212 × 150 × 150 cm	
73	大いなる巨大な南瓜	草間彌生	2024	F.R.P.、ウレタン塗装	245 × φ260 cm	

※作品番号2-5は、モニター展示とした。

※作品番号20-36の作品サイズは、画面（イメージ）／用紙（シート）の順で併記した。

[関連企画]

講演会

第四回 対談イベント「出会うということ」

日時：2024年8月4日（日）15:00～16:30（展覧会鑑賞：～17:30）

対談者：高橋睦郎（詩人）

建島哲（当館館長）

参加者数：43名

場所：新宿区立漱石山房記念館 講座室

ギャラリートークの実施

当館学芸スタッフによるオンライン上でのギャラリートークを1回、当館公式インスタグラムアカウント (@yayoikusamamuseum) のコンテンツとして配信。

アーカイブ映像の制作

展覧会の見どころをまとめた約5分半の記録映像を制作。美術館のウェブサイトおよびインスタグラムアカウントを通して無料公開している。映像の編集や音楽を工夫することで、アーカイブであると同時に、広報ツールとしても機能することを目指した。

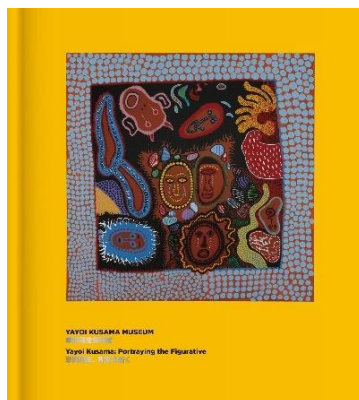
公開日：2024年9月6日（金）

展覧会図録の制作

発行：2024年4月/一般財団法人草間彌生記念芸術財団

体裁：規格外A4変型ハードカバー・64P・日英バイリンガル

価格：2,400円（税込）



○14回展覧会企画「私は死を乗り越えて生きてゆきたい」概要

タイトル 「私は死を乗り越えて生きてゆきたい」

会期 2024年10月17日（木）～2025年3月9日（日）

プレスプレビュー 2024年10月16日（水）14:00～15:30

開催日数 82日間

入場時間 ①11:00 ②12:00 ③13:00 ④14:00 ⑤15:00 ⑥16:00

11:00 から各90分枠の6回転制、2か月前の1日から美術館ウェブサイトのみでチケットを販売（10月分のチケットのみ9月1日より販売）。事前予約・定員75名。

当日の入館時間の30分前までチケット購入が可能。

観覧料 一般 1,100円 小中学生 600円 (税込)

※未就学児は無料。団体割引の設定はなし。

入場者数 35,954名

1日平均 438名

図録 A4変型 56ページ・ハードカバー・日英バイリンガル

チラシ A4

出品点数 49点

企画趣旨 太平洋戦争を複雑な家庭環境下で体験し、トラウマや神経症による自殺未遂衝動を創作活動で乗り越えてきた草間彌生にとって、生と死は常に差し迫った問題であった。1957年の渡米後、「自己消滅」を網目の絵画や彫刻等で表現し評価を得た草間は、60年代後半に同コンセプトのもと、水玉模様を人体に描くハプニングで反語的に人体・生命の美しさを強調し反戦を唱える。続く70～80年代は、心身の不調による帰国、父や恋人の死を経て、死をテーマとする暗い色調のカラージュや立体作品を多数制作。80年代後半の作品は、自己消滅を通じた永劫回帰や輪廻転生をテーマとするようになる。2000年以降の絵画シリーズでは、迫りくる死の影が起爆剤となり、生命の神秘、生きる喜びを、色の洪水ともいえる画面にひたすらに描き続けている。本展では、戦争の影が色濃く見られる1940～50年代の絵画から最新作までの多様な作品の展覧を通し、草間の死生観の表出とその変遷を紹介した。

出品リスト

No.	作品名	作家名	制作年	材質・技法	寸法(縦×横)	所蔵 (記載の無いものは草間彌生美術館所蔵予定)
1	生命(REPETITIVE VISION)	草間彌生	1998	縫製布、ウレタン、アクリル、木	サイズ可変	
2	自殺の儀式	草間彌生	2013	アクリル・キャンバス	194×194 cm	
3	永遠に生きていきたい	草間彌生	2017	アクリル・キャンバス	194×194 cm	
4	残夢	草間彌生	1949	岩彩・紙	136.5×151.7 cm	
5	残骸	草間彌生	1950	油彩、水彩・紙	44.5×52 cm	

6	別離	草間彌生	1952	インク、水彩、糸、絹布、コラージュ・紙	45×53 cm	
7	SEA OF MY BLOOD	草間彌生	1976	布、粘土、エナメル塗料	サイズ可変	
8	死を前にした魂	草間彌生	1975	コラージュ、パステル、インク、布・紙	54.4×39.3 cm	
9	生きていた日の岩の思い出	草間彌生	1975	コラージュ、パステル・紙	54.5×39.5 cm	
10	傷ついた心の夜	草間彌生	1975	コラージュ、パステル、インク、布・紙	54.6×39.5 cm	
11	肉体をはなれるときの魂の色	草間彌生	1975	コラージュ、パステル・紙	54.5×39.5 cm	
12	死の前に考える	草間彌生	1975	コラージュ、パステル、インク・紙	54.5×39.5 cm	
13	鳥と共によこたわる	草間彌生	1975	コラージュ、パステル、インク・紙	54.6×39.6 cm	
14	魂の安息を求める日	草間彌生	1975	コラージュ、パステル・紙	54.3×39.3 cm	
15	早春の沼地に死んだ私	草間彌生	1975	コラージュ、インク、パステル・紙	55×39.5 cm	
16	希死	草間彌生	1975-76	詰め物入り縫製布、キッチンツール、金属トレイ、エナメル塗料	10点組、サイズ可変	
17	死への旅出のために	草間彌生	1988	ミクストメディア	15×30×25 cm	
18	地獄の入口	草間彌生	1974	セラミック、エナメル塗料	15×φ25 cm	
19	月下の花園	草間彌生	1988	ミクストメディア	46×34×17 cm	
20	人をしたい	草間彌生	1985	木、毛皮、彩色	50.5×30×15 cm	個人蔵
21	草間彌生による自己消滅パフォーマンスの記録 会場：ビデオギャラリーSCAN、東京	草間彌生	1983	ビデオカラー、サウンド	26分37秒	企画：瀬島久美子 制作：ビデオギャラリーSCAN
22	再生の瞬間	草間彌生	2024	詰め物入り縫製布、木	サイズ可変	
23	命の炎―杜甫に捧ぐ	草間彌生	1988	アクリル・キャンバス	194×390 cm	個人蔵
24	愛はとこしえに開いてゆく 死をのりこえて	草間彌生	2009	アクリル・キャンバス	130.3×162 cm	

25	死にゆく日は栄光の大地で	草間彌生	2021	アクリル・キャンバス	130.3×130.3 cm	
26	わたしは晩年の人生をいま迎えている	草間彌生	2017	アクリル・キャンバス	194×194 cm	
27	命の讃歌	草間彌生	1988	アクリル・キャンバス	41×31.8 cm	
28	亡き父母にさ、ぐ きみは死 していま たましいはふよう のくもの上を にじの光のこ なまみれて とわにきえて さりぬ	草間彌生	2021	アクリル・キャンバス	45.5×53 cm	
29	わが人生はすべて燃えている	草間彌生	2018	アクリル・キャンバス	194×194 cm	
30	私は死を乗り越えて生きてゆ きたい	草間彌生	2021	アクリル・キャンバス	130.3×130.3 cm	
31	わが生まれしきたことの わ が最大の魂の願いは 命と心 の身体の限り 生き抜くこと の 美しさの極み 心を捧げ て 美しく人生を終えること	草間彌生	2021	アクリル・キャンバス	130.3×130.3 cm	
32	命への讃歌	草間彌生	1988	アクリル・キャンバス	91×72.7 cm	
33	天国への階段	草間彌生	1992	アクリル・キャンバス	91×72.7 cm	
34	毎日愛について祈っている	草間彌生	2023	アクリル、マーカー ペン・キャンバス	72.7×60.6 cm	
35	命の限り	草間彌生	2015	アクリル・キャンバス	194×194 cm	
36	私の死の姿を 天地や宇宙の 彼方を走り回って探したら 見いだしたの 地の底を 私 は涙をこぼして確かめたところ ムラサキの色になっていた ので 思わず私は涙を持って 抱きしめた	草間彌生	2021	アクリル・キャンバス	130.3×130.3 cm	
37	種の起源	草間彌生	1987	アクリル・キャンバス	45.5×38 cm	
38	死よもう私かたりかけないで ね なぜなら私の中の死にた いするかんげきもえさかっ てきたのだから こころの中 の死 わがこころの中の死の おもかげよ 死のかたち！	草間彌生	2021	アクリル・キャンバス	60.6×72.7 cm	
39	すばらしい地球のかがやいた 姿に打たれた私の人生の道の り	草間彌生	2020	アクリル・キャンバス	100×100 cm	
40	生命のかがやき	草間彌生	1987	アクリル・キャンバス	53×65.2 cm	

41	人間の生命は無に帰す	草間彌生	2011	アクリル・キャンバス	162×162 cm	
42	生と死を踏みこえて戦い続けていく私	草間彌生	2020	アクリル・キャンバス	100×100 cm	
43	かつて死んでいった人々よ永遠にあなたの美しさをみせてほしい	草間彌生	2020	アクリル・キャンバス	100×100 cm	
44	死界へまぎれこんだわが心のすべて	草間彌生	2016	アクリル・キャンバス	194 × 194 cm	
45	光をたづねて	草間彌生	1987	アクリル・キャンバス	45.5×38 cm	
46	生命の過程	草間彌生	1988	アクリル・キャンバス	45.5×53 cm	
47	未来を超えて、進みたい	草間彌生	2000	アクリル・キャンバス	116.7×116.7 cm	
48	マンハッタン自殺未遂常習犯の歌	草間彌生	2010	ビデオプロジェクション、鏡	サイズ可変、1分17秒	
49	大いなる巨大な南瓜	草間彌生	2024	F.R.P.、ウレタン塗装	245×φ260 cm	

[関連企画]

講演会

「草間彌生の美的宇宙—彼女はいかに時代を駆け抜けたか—」

日時：2025年2月16日（日）15:00～16:30

講師：谷川渥（美学者・批評家）

参加者数：38名

場所：新宿区立漱石山房記念館 講座室

ギャラリートークの実施

当館学芸スタッフによるオンライン上でのギャラリートークを1回、当館公式インスタグラムアカウント（@yayoikusamamuseum）のコンテンツとして配信。

アーカイブ映像の制作

展覧会の見どころをまとめた約5分の記録映像を制作。美術館のウェブサイトおよびインスタグラムアカウントを通して無料公開している。映像の編集や音楽を工夫することで、アーカイブであると同時に、広報ツールとしても機能することを目指した。

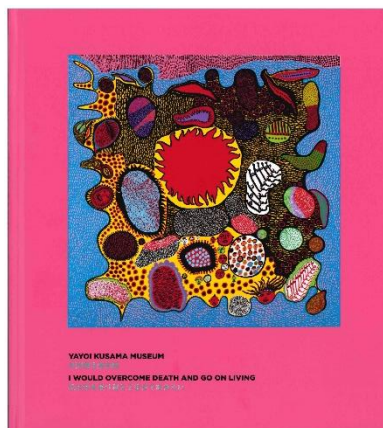
公開日：2025年3月26日（水）

展覧会図録の制作

発行：2024年10月/一般財団法人草間彌生記念芸術財団

体裁：規格外 A4 変型ハードカバー・56P・日英バイリンガル

価格：2,860円（税込）



2. 教育普及活動

当館では現代美術の普及と理解の促進のため、幅広い年齢層に向けた教育普及プログラムを提供している。展示作品への関心を深め、鑑賞後の印象や感想を家族や知人と交換する機会を提供し、草間作品を通して現代美術をより身近に体験してもらうことを目指したプログラムの推進に積極的に取り組んできた。

未就学児のいる家族を対象にしたプログラム「おやこで美術館」、小学生を対象としたワークショップは、対面とオンラインをそれぞれ継続開催している。参加人数が限られてしまうため、14回展では開催時間と一回あたりの人数を増やして開催した。教育普及活動の運営は、大学生を中心に約10名のボランティアスタッフの協力を得て実施している。

[美術館たんけんワークシート]

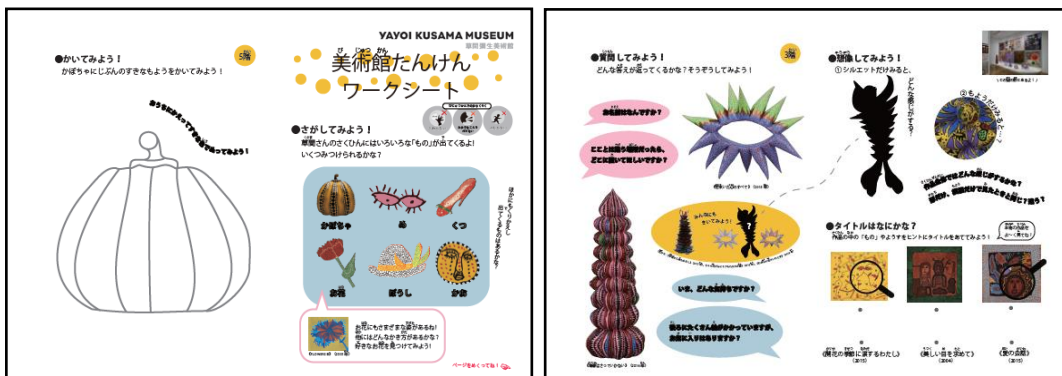
来館する子ども向けの鑑賞ツールとして、子どもたちが作品の細部など様々な要素に注目し、作品を見ながら物語を想像できるよう、出展作品の理解と楽しい時間を過ごすことを目的に、展覧会ごとに作成し来館者（希望者）へ配布した。作品保全の観点から、鉛筆を使わずに楽しめるシートを工夫した。また、美術館の受付にワークシートのサンプルを設置し、希望者の目に留まるよう努めた。

対象：小学生以下

配布数：第13回展 日本語195名／英語190名（78日間）

第14回展 日本語127名／英語106名（82日間）

・13回展ワークシート（日本語版）



・14回展ワークシート（日本語版）



【こどもワークショップ】

対面では計3回、オンラインでは計2回実施。参加者は対面が小学生11名、オンラインは小学生10名で、展覧会の作品の一部を鑑賞し、それに合ったテーマで創作を行う約1時間のプログラムを実施した。オンラインでは、事前にメールで保護者へ創作のためのPDFデータの出力と材料の準備を依頼した。

・13回展ワークショップ

<オンライン>プログラム名：「つくろう！『わたしのこころ』のカラーージュ」

オンラインツールを活用し、子どもたちと保護者には自宅から参加してもらった。まず、2点のカラーージュ作品を拡大写真などをもとに細部まで鑑賞し、感じたことを発表した。その後、「わたしのこころ」を表現できる大切なものをカラーージュで作成した。馴染みのなかった手法に興味を持った子どもたちは、イベント終了後も自主的に作品を制作していた。

実施日	時間	参加人数
2024年 7月28日（日）	60分	小学校1～3年生（5名）

<対面>プログラム名：「無限に続く、〇〇の愛！」

通常のプログラムよりも30分長く楽しめる夏休み特別企画を実施。《無限の彼方へかぼちゃは愛を叫んでゆく》の鑑賞を通して、草間が「わたしのこころ」と表現するかぼちゃが鏡の中で無限に広がる様子を楽しんだ。その後、自分にとって大切なものをモールを使っていくつか制作し、作品を模した箱の中に配置することで、自分だけのミラールーム作品を完成させた。夏休み特別企画として50組以上の応募があり要望の声が高かった。

実施日	時間	参加人数
2024年 8月14日（日）	90分	小学校 2～4年生（4名）



<対面> 創作の様子



<オンライン> 創作作品

・14 回展ワークショップ

<オンライン>プログラム名：「気になる！どこにつながる入口？」

オンラインツールを活用し、子どもたちと保護者には自宅からの参加とした。《地獄の入口》を鑑賞した後で、どんな世界への入口なのかを想像し、話し合った。創作には粘土を使い、自分だけの世界へつながる「〇〇の入口」を制作し、自分の好きなものを詰め込んだ「入口」に彩色を加えるなど、バリエーション豊かな作品が完成した。

実施日	時間	参加人数
2025年 2月11日（火・祝）	60分	小学校2～5年生（5名）



鑑賞作品

《地獄の入口》（1974年）



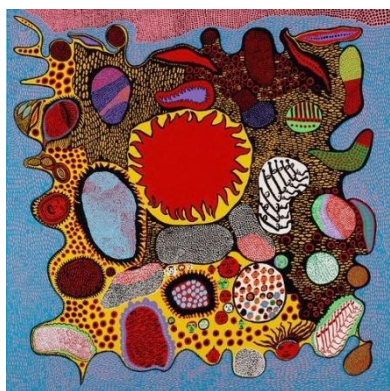
創作した作品

<対面>

プログラム名：「命ってどんなふうに見える？感じる？スケッチに挑戦しよう！」

《命の限り》を鑑賞し、作品の中で命が表現されているように感じた部分や気に入ったところをスケッチした。その後、着彩や絵を付け足すなど、オリジナルの要素を加えて作品を完成させた。鑑賞作品の全体像を描くことや、特定のモチーフに注目してスケッチし、様々な視点で楽しむ姿が見受けられた。

実施日	時間	参加人数
2025年 2月9日（日）	60分	小学校3、4年生（3名）
2025年 2月23日（日）	60分	小学校1、2年生（4名）
計 2回		7名



鑑賞作品

《命の限り》（2015年）



スケッチの様子

[おやこで美術館]

未就学の子どもがいる家族を対象にした鑑賞プログラムを計3回開催した。来館者からは、他の来館者の目を気にせず子どもを美術館に連れてこられるという評判を得ており、規模は小さいが継続開催した。壁一面に絵画が展示された3Fギャラリーでは、子どもたちが参加しやすいように作品を鑑賞して気づいたことをオノマトペを使って発表した。立体作品のある5F屋上ギャラリーでは作品に配慮しながら、作品鑑賞と写真撮影を行った。

・13回展 おやこで美術館

実施日	時間	参加人数
2024年 6月2日（日）	60分	子ども（4名） 保護者（5名）
6月9日（日）	60分	子ども（3名） 保護者（3名）
計 2回		子ども 7名 保護者 8名



参加者の様子

・14回展 おやこで美術館

実施日	時間	参加人数
2024年 11月17日 (日)	60分	子ども (3名) 保護者 (3名)
11月20日 (水)	60分	子ども (2名) 保護者 (2名)
11月24日 (日)	60分	子ども (4名) 保護者 (5名)
計 3回		子ども 9名 保護者 10名



参加者の様子

[スクールプログラム]

時期：2024年6月26日(水)

10:00-11:00

学校名：新宿区立戸塚第三小学校

参加者：小学生3年生35名+教員3名



・14回展は実施なし

[KUSAMA LEARNING 小学生に現代アートを。「草間さんの作品を見てみよう!」]

昨年度から始めた取り組みで、展覧会風景のダイジェスト動画と、小学生向けのパンフレット「こどもガイド」(2種)をセットにして、美術館を来訪する機会がなくても小学校の授業で現代美術を体験できる機会を提供するプログラム。今年度は国内の小学校だけでなく、インターナショナルスクールや海外からの申込みもあり、セットと先生向けのガイドを配布、次回へ生かすため利用後のアンケートも集約。

申込期間	参加小学校/人数
第一期 7月3日(水)～7月31日(水)	8校/1,410人
第二期 8月1日(木)～8月31日(土)	10校/935人
	計 18校/2,345人

[障がい者対応プログラム トライアル実施]

障がい者対応プログラムを模索するため、鑑賞プログラムのトライアルの2回目を実施した。今回協力を得たのは、ダウン症の子どもを対象とした児童発達支援および放課後デイサービスを行っている近隣の施設「バンブーワァオ 早稲田校」。①赤ちゃんグループ、②幼児グループに分かれ、各1回ずつ実施した。

実施日	時間	参加人数
2024年7月31日(水)	午前	①子ども(6名) 保護者(8名)
	午後	②子ども(7名) 保護者(7名)
		計 子ども(13名) 保護者(15名)



参加者の様子

3. 作品の収集・保存および調査・研究

作品や資料の収集

作品の収集

関連資料の収集

関連書籍等の収集

作品や資料の保存

作品や資料の保存管理

作品や資料のデジタルアーカイブ（計画段階、草間スタジオで先行作業を実施）

作品や資料の調査・研究

作品・展示解説を掲載した図録の制作・発行と、関連機関への寄贈

作品に関する評論等の調査・研究

4. 著作権の管理

権利者の利益はもちろんのこと、社会全体の文化創造の活力が損なわれることのないよう、草間彌生の著作権情報の窓口として株式会社草間彌生と協働して管理業務を行う。

・商標登録

日本

海外

・著作権侵害案件の対応

日本

海外

・ライセンス事業

5. 美術館（建物）の管理

[建物改修に向けた情報収集の実施]

美術館内の温湿度管理などで問題が生じた時に外部業者と解決策などを相談することも増え、建物竣工後10年を超え空調機の交換など数年先の可能性について情報収集を始めた。

[防災訓練の実施]

年2回（2024年6月20日（木）／11月14日（木））

6. その他、財団の目的達成のために必要な活動

[美術館ショップ事業の管理]

2024年4月からショップ事業を(株)草間彌生 MD 事業部へ移管。

[全国美術館会議の研修へ参加・ネットワーク形成]

2020年入会后、美術館同志の連携やネットワーク形成を通じ、情報交換や研修参加による知見の共有をはかり、美術館活動に反映している。

[博物館登録完了後の東京都との情報連絡]

東京都教育委員会へ博物館登録は2022年3月に完了し、引き続き登録博物館としてのガイドラインに則り運営した。東京都から博物館登録に関する規則改正に伴う情報提供への対応を行う。

II. 運営体制

1. 役員

令和7年3月現在

代表理事 草間 弥生

業務執行理事 建島 哲

草間 祐輔

島 敦彦

中森 康文

林 知一

松本 透

7名

評議員 伊東 正伸

塩田 純一

澁田見 彰

平野 到

前山 裕司

南 雄介

鷺田 めるろ

7名

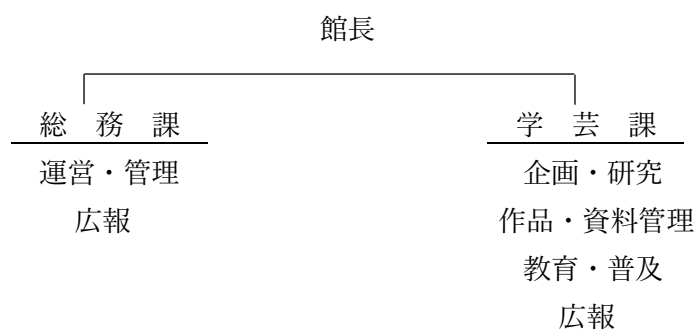
監事 大森 京太

加登屋 健治

2名

2. 組織図

令和7年3月現在



以上